

清武町文化財調査報告書 第5集

HAKKANO

# 白ヶ野第1・第4遺跡

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査概要報告書

1997

清武町教育委員会



白ヶ野第1遺跡土層断面

## 序

本書は、清武町船引地区で進められている県営農地保全事業に伴い、事業地で実施した白ヶ野第1遺跡・白ヶ野第4遺跡の発掘調査概要報告書です。調査の結果、縄文時代の集石遺構や土壇、又中世のものと思われる土壇群などが確認されるとともに、縄文土器や石器などの良好な資料が多数出土しました。

これらの成果が近年全国的に関心を集めている南九州の縄文時代研究の進展に寄与する学術資料として、あるいは学校教育、社会教育の資料として広く活用され埋蔵文化財の保護への理解につながれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、多大な御協力をいただきました船引土地改良区をはじめとする地元の皆様に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成9年3月

清武町教育委員会

教育長 黒崎 改 司

## 例 言

1. 本書は、県営農地保全事業（船引地区）に伴う、白ヶ野第1遺跡・白ヶ野第4遺跡の発掘調査概要報告書である。

2. 調査組織は以下のとおりである。

|            |          |
|------------|----------|
| 調 査 主 体    | 清武町教育委員会 |
| 事 務 局      |          |
| 教 育 長      | 黒 崎 改 司  |
| 教 育 次 長    | 谷 口 忠 誓  |
| 社会教育課長     | 戸 高 輝 利  |
| 同課長補佐兼文化係長 | 落 合 兼 雄  |
| 社会教育課主任    | 川 越 健    |
| 調 査 員      |          |
| 社会教育課主任    | 伊 東 但    |
| 社会教育課嘱託    | 井 田 篤    |

3. 遺物、図面の整理は、清武町文化財管理事務所において、  
が行った。

4. 挿図の実測、拓本、トレースは伊東、井田が行った。

5. 本書に使用した写真は、伊東、井田が撮影し、空中写真については（株）スカイサーベイに委託した。

6. 本書に使用した記号は次のとおりである。SI：集石遺構 SC：土城

7. 本書の編集・執筆は井田が行った。

# 目 次

|                    |    |
|--------------------|----|
| 第1章 はじめに           | 1  |
| 第1節 調査にいたる経緯       | 1  |
| 第2節 遺跡の位置と環境       | 1  |
| 第2章 白ヶ野第1遺跡        | 4  |
| 第1節 白ヶ野第1遺跡の土層について | 4  |
| 第2節 集石遺構           | 6  |
| 第3節 土塚群            | 6  |
| 第3章 白ヶ野第4遺跡        | 9  |
| 第1節 遺跡の立地と調査の概要    | 9  |
| 第2節 縄文時代早期の土塚      | 9  |
| 第3節 集石遺構           | 10 |
| 第4章 まとめ            | 14 |
| 報告書抄録              | 20 |

## 挿 図 目 次

|      |                     |    |
|------|---------------------|----|
| 第1図  | 位置図 (1/50000)       | 2  |
| 第2図  | 調査区域図 (1/5000)      | 3  |
| 第3図  | 白ヶ野第1遺跡土層断面図 (1/20) | 4  |
| 第4図  | 白ヶ野第1遺跡遺構配置図        | 5  |
| 第5図  | SC40実測図 (1/20)      | 6  |
| 第6図  | 白ヶ野第1遺跡遺物分布図        | 7  |
| 第7図  | 白ヶ野第1遺跡出土遺物実測図      | 8  |
| 第8図  | SC1・2実測図 (1/20)     | 9  |
| 第9図  | SI2実測図 (1/20)       | 10 |
| 第10図 | 白ヶ野第4遺跡遺構配置図        | 11 |
| 第11図 | 白ヶ野第4遺跡遺物分布図        | 12 |
| 第12図 | 白ヶ野第4遺跡出土遺物実測図      | 13 |

## 図 版 目 次

|     |                  |    |
|-----|------------------|----|
| 図版1 | 白ヶ野第1遺跡中央調査区全景   | 15 |
| 図版2 | 白ヶ野第1遺跡北調査区全景    | 15 |
| 図版3 | 白ヶ野第1遺跡SC40      | 16 |
| 図版4 | 白ヶ野第4遺跡全景        | 16 |
| 図版5 | 白ヶ野第4遺跡石製装身具出土状況 | 17 |
| 図版6 | 白ヶ野第4遺跡SI2       | 17 |
| 図版7 | 白ヶ野第1遺跡出土遺物      | 18 |
| 図版8 | 白ヶ野第4遺跡出土遺物      | 19 |

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

平成7年度より行われている清武町船引地区の県営農地保全事業に伴い、事業区の一部が白ヶ野第1遺跡・白ヶ野第4遺跡に含まれることが確認された。遺跡の取扱いについて協議した結果、やむを得ず削平等により影響を受ける事業区について、発掘調査を行い記録保存する事となった。

白ヶ野第1遺跡は平成7年度にその中央部分が調査されており、平成8年度は平成8年7月22日から12月28日までの期間において白ヶ野第1遺跡の北部分と白ヶ野第4遺跡の調査を宮崎県中部農林振興局の委託を受け、清武町教育委員会が実施した。

## 第2節 遺跡の位置と環境

清武町は県央、宮崎平野の南西部に位置し、日南山塊から延びる丘陵の先端部及びその間を流れる清武川とその支流水無川を中心とした低地から成り、川沿いの丘陵地には河岸段丘が発達し、町内の遺跡の大半はこの段丘上平坦面に形成されている。

白ヶ野第1遺跡は清武町の北西部船引地区に所在し、町内を流れる清武川の左岸、背後に標高110m近い丘陵を有する河岸段丘上（標高約90m）に位置し、白ヶ野第4遺跡はその白ヶ野第1遺跡を南西に見下ろす丘陵部（標高約100m）に位置する。

近辺には、宮崎県教育委員会主体により発掘調査が行われ、縄文時代早期の集石遺構や縄文時代後期の竪穴式住居跡、中・近世の石塔等が検出された上ノ原第1・第2・第3・第4遺跡や、118基を数える集石遺構や縄文時代後期の竪穴式住居跡、平安時代の竪穴式住居跡等が検出された白ヶ野第2・第3遺跡、又その他にも、今後調査の予定される滑川第1・第2遺跡、山田遺跡等が所在する。



第1図位置図



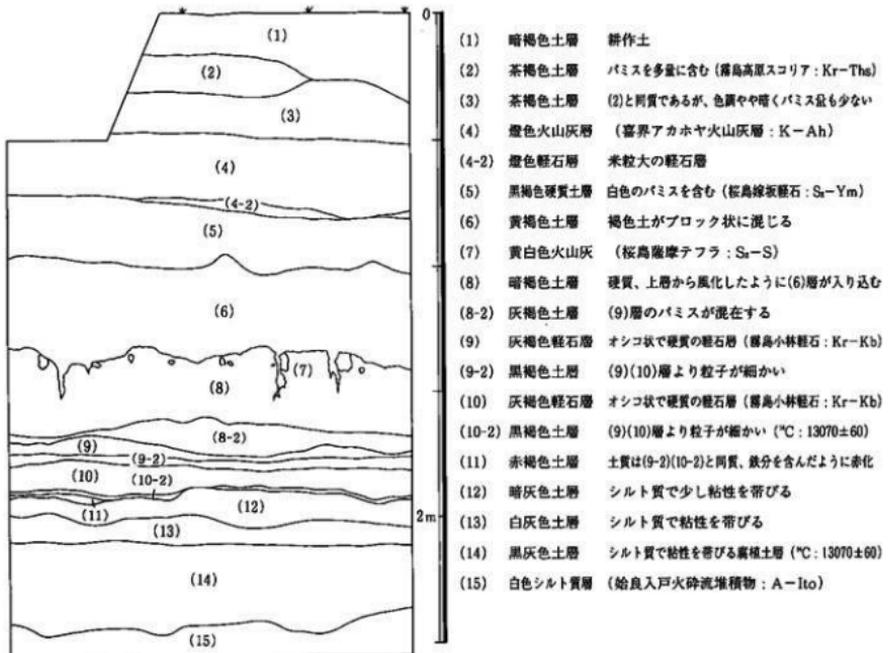
第2図 調査区域図

## 第2章 白ヶ野第1遺跡

### 第1節 白ヶ野第1遺跡の土層について

白ヶ野第1遺跡の旧地形を復元してみたところ調査区中央部が谷地形であったため、その谷部でトレンチによる土層確認を行った。その土層断面図が第3図であるが、同遺跡の他の土層断面と比較してみると(8)層まではほぼ似かよった堆積状況であった。ここで注目すべきは(9)層より(15)層の堆積状況である。(9)・(10)層(霧島小林軽石層)がオコシ状に堆積し(かなり硬質)、(10)層の上下に黒褐色土が堆積するというものだが、(11)層以下の堆積状況も含めて推察すると、二通りの堆積状況が考えられる。一つは低湿地部に1次堆積した(10)層の上部に(9)層がなんらかの要因で2次堆積したケース、もう一つは(9)・(10)層のいずれれもが2次堆積であるケースである。いまのところ前述の堆積状況を重視しているが、いずれにしても興味深い資料であるので、今後調査予定となっている付近の遺跡でも注目していきたい。

なお土層断面については、植物珪酸体及びテフラ検出分析、さらに放射性炭素年代測定等、自然科学分析を(株)古環境研究所に委託した。



第3図 白ヶ野第1遺跡土層断面図



第4図 白ヶ野第1遺跡遺構配置図

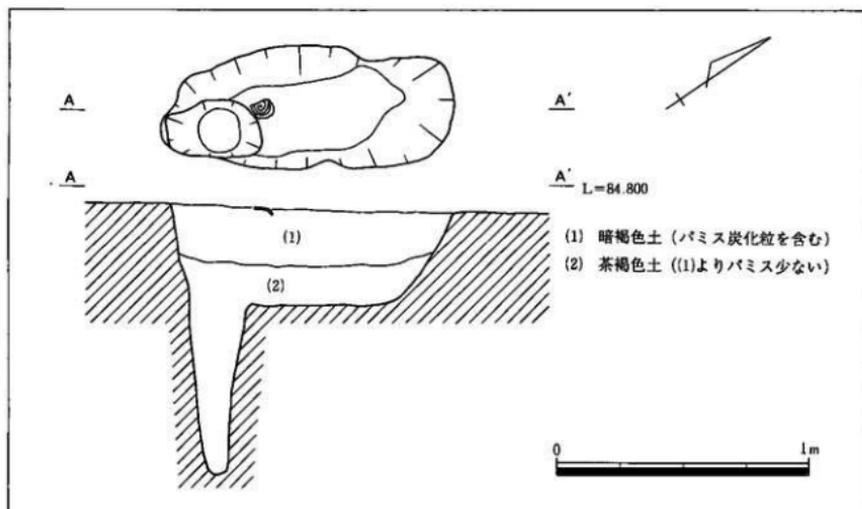
## 第2節 集石遺構

調査の結果、縄文時代早期の集石遺構が13基検出された。13基のうち、配石と掘込み両方持つものが3基、掘込みのみを持つものが9基、いずれも無いものが1基であった。なかには検出した際（検出面は第3図(6)層の上部）の直径が約1.5m、掘込みの深さ約1m、使用されている礫の総重量約400kg（5分の1が耕作によって破損）という大型の集石遺構もあった。供伴遺物は無かったが、数基の集石遺構からは炭化物が検出された。

## 第3節 土塚群

アカホヤ層において遺構の検出を行ったところ、総数107基の土塚が検出された。土塚の構築時期については不明だが、埋土中より検出された霧島高原スコリアの堆積状況からみてその構築時期は霧島高原スコリア降下時期（10～13世紀）とほぼ同時期ではないと思われる。又、全土塚のうち遺物を伴うものは、埋土の上層からへら切り底の土師器の坏が一点出土している〔SC40（第5図）〕のみであった。

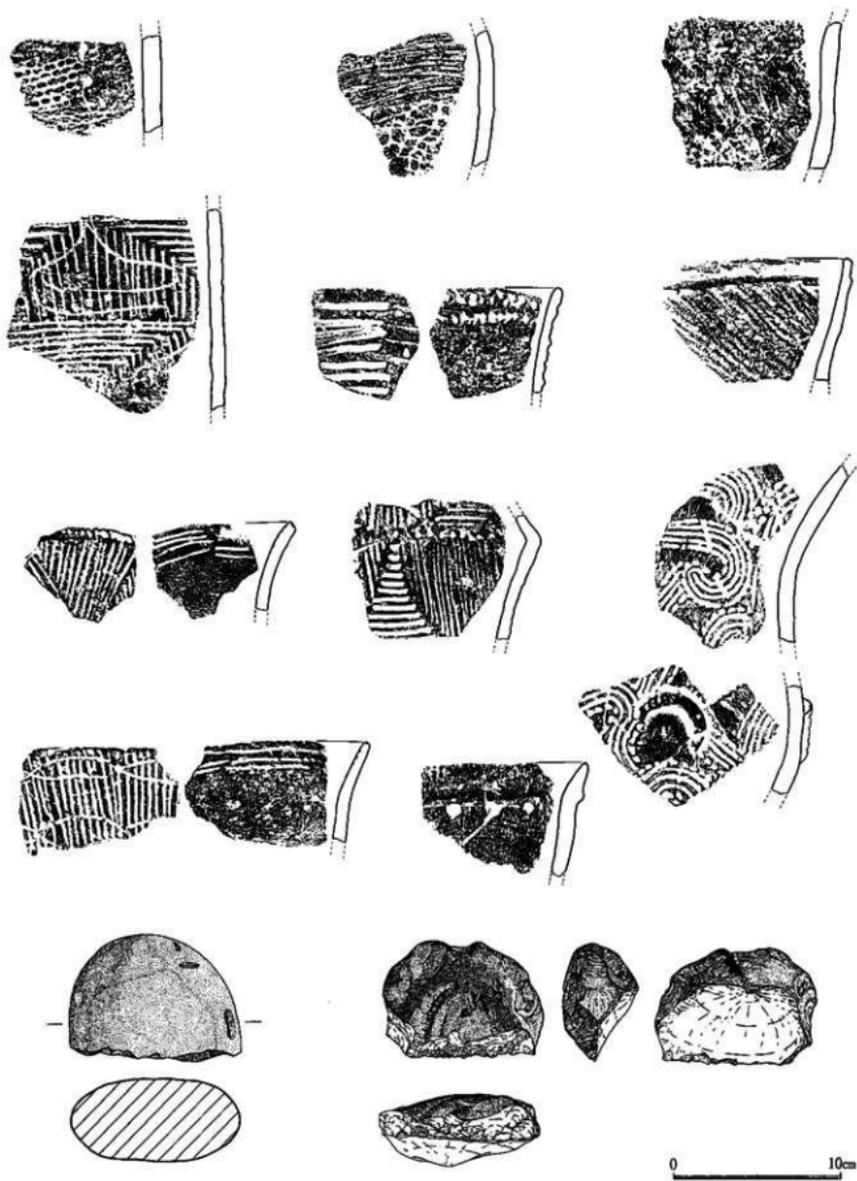
その用途についても不明であるが、ほとんどの土塚が端部にピット（深さは1m前後）を有することから、棒状の物を立てて使用した姿が想像できる。いずれにしても構築時期、用途については不明な点が多く、今後の検討が必要であろう。



第5図 SC40実測図



第6図 白ヶ野第1遺跡遺物分布図



第7図 白ヶ野第1遺跡出土遺物実測図

### 第3章 白ヶ野第4遺跡

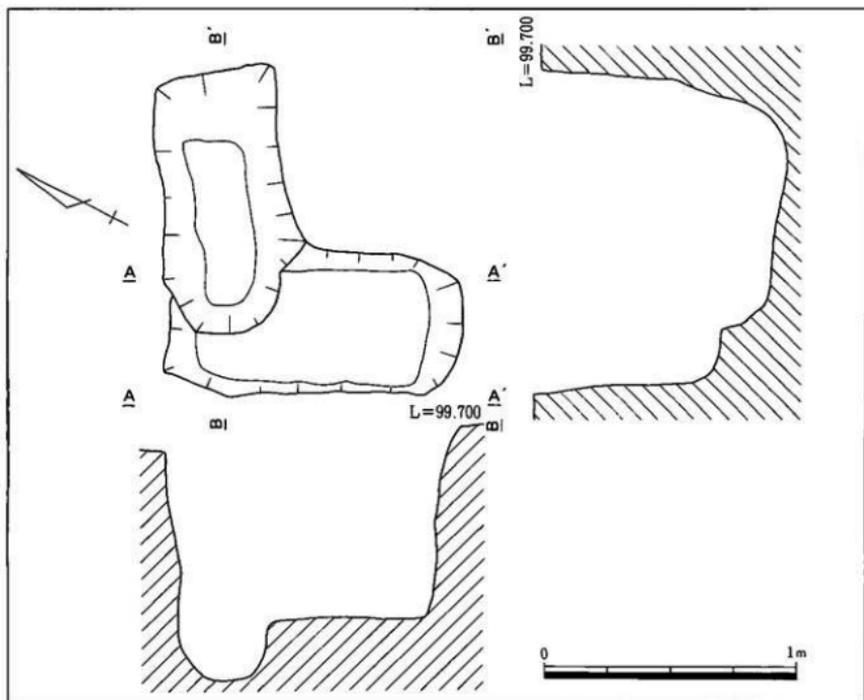
#### 第1節 遺跡の立地と調査の概要

白ヶ野第4遺跡は白ヶ野第1遺跡を見下ろす丘陵尾根部に立地しているため調査区も起伏に富んでおり、また、アカホヤ層までは現代の耕作により攪乱を受けていた。斜面部においては遺物は出土せず遺構も確認できなかったが、窪地部分より、押型文土器を中心とする多数の縄文時代早期の土器や石器等が出土し、集石遺構及び土壇も検出された。

#### 第2節 縄文時代早期の土壇

白ヶ野第4遺跡では、霧島小林軽石層まで掘り下げた段階で縄文時代早期の土壇が2基検出された。2基は切り合っていたためその前後関係を調査したが、埋土（茶黑色硬質土）がほぼ同一であったため確認は不可能であった。

又、どちらの土壇からも前平式土器と思われる貝殻条痕文土器片が出土した。

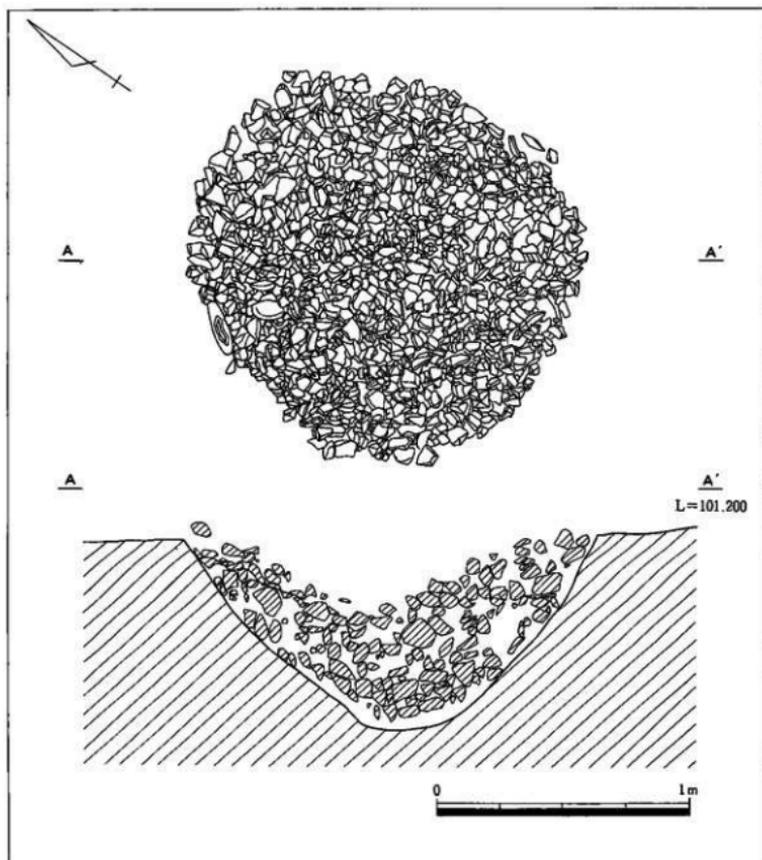


第8図 SC1・2実測図

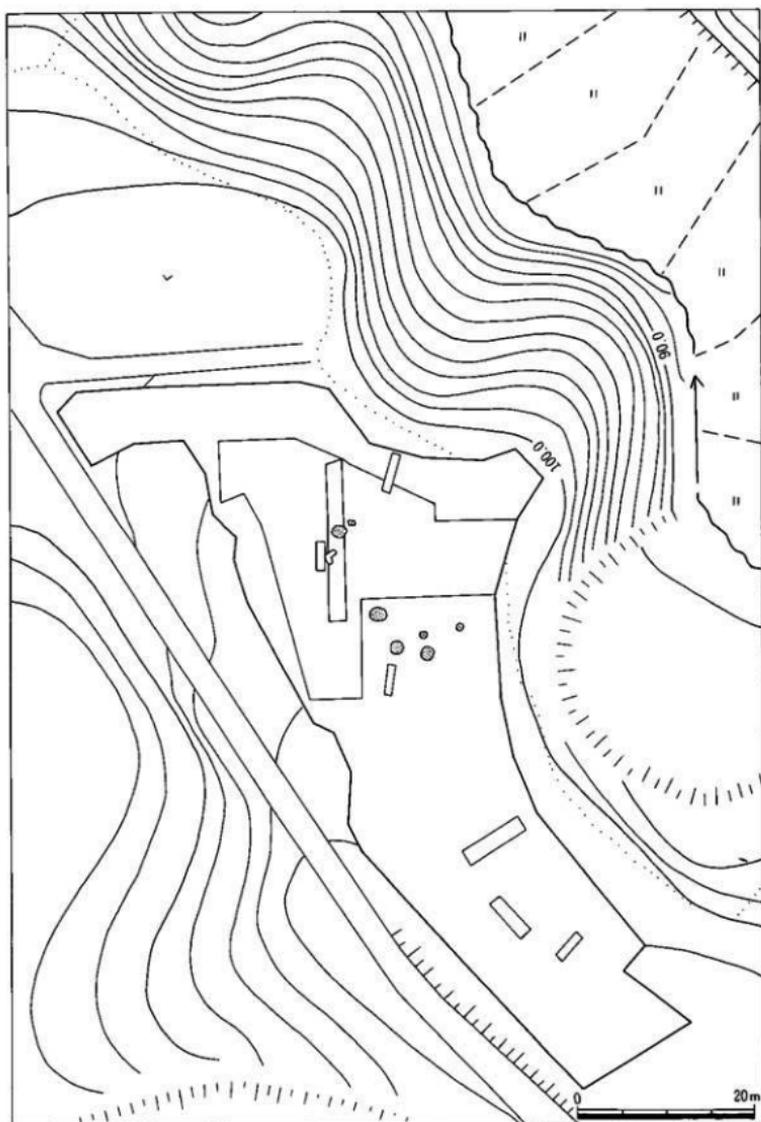
### 第3節 集石遺構

調査の結果、シラス層の露頭する場所で5基、窪地部で2基、計7基の集石遺構が検出された。7基すべてが掘り込みを持ち、配石を持たないタイプで、最大のS I 2（第9図）では、約650kgもの礫が使用されていた。

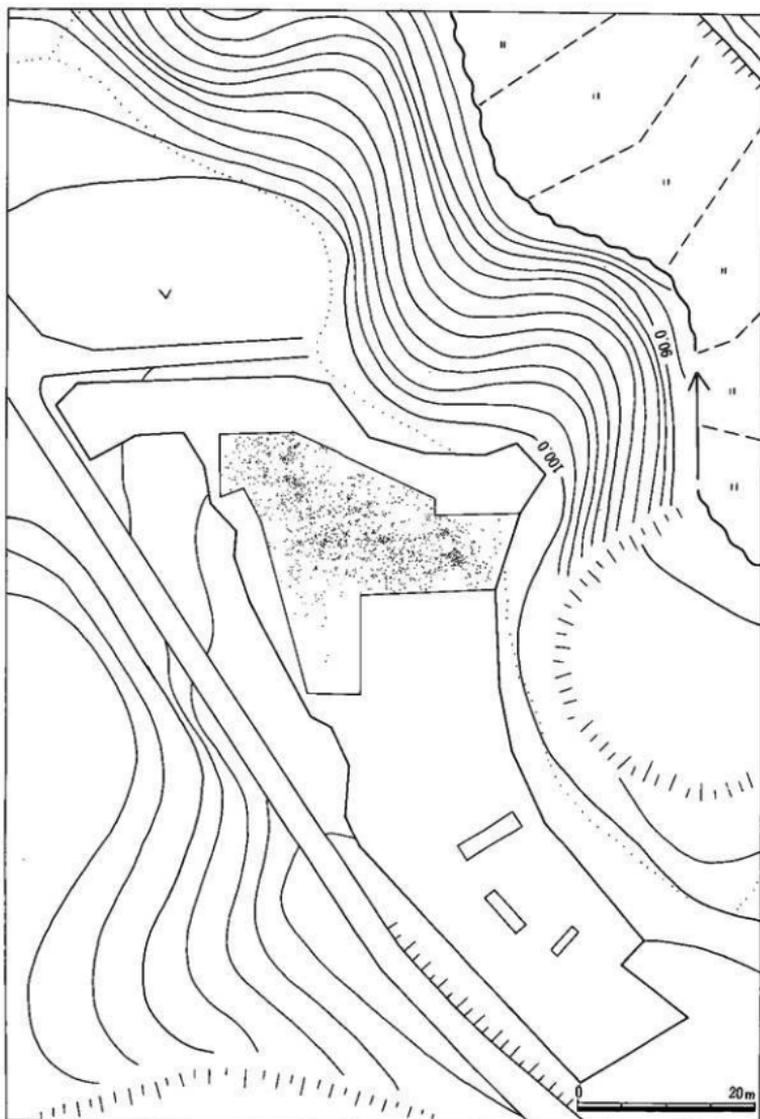
又、大型の集石遺構2基の周りに小型の集石遺構が数基存在するが、この形は白ヶ野第1遺跡でも見られ、これが何らかの意味を持つのかは今後検討の必要があろう。



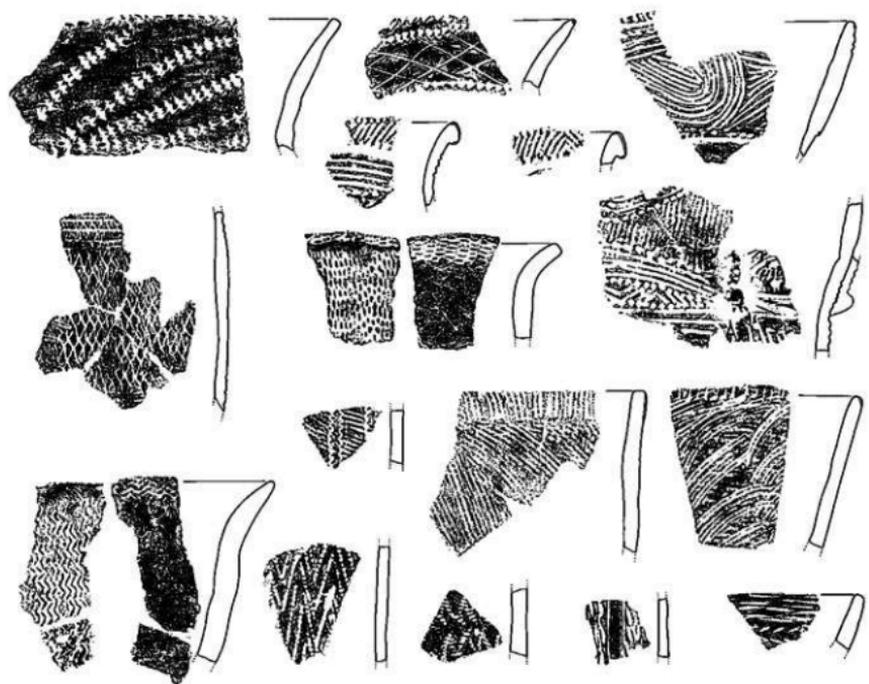
第9図 S I 2 実測図



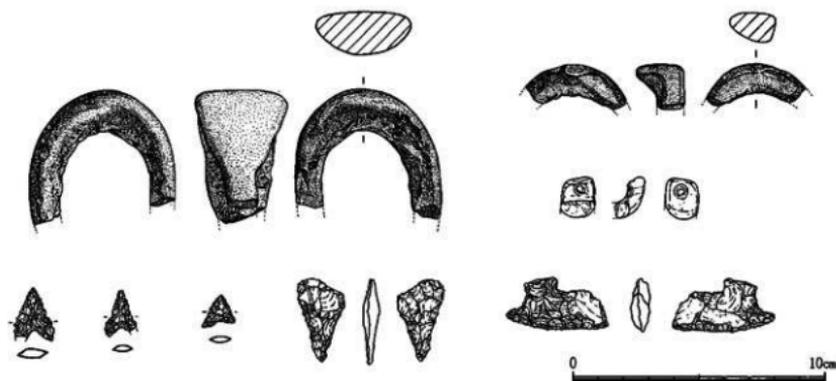
第10図 白ヶ野第4遺跡遺構配置図



第11圖 白ヶ野第4遺跡遺物分布図



0 10cm



0 10cm

第12図 白ヶ野第4遺跡出土遺物実測図

## 第4章 まとめ

白ヶ野第1遺跡では、霧島小林軽石層の下層までの調査を部分的に行ったが、霧島小林軽石層及びその上下層から旧石器時代の石器（スクレイパー）や剥片が出土した。

縄文時代早期の遺構としては集石遺構が13基検出され、又、遺物は押型文土器などが調査区全体に散在している状況であった。

アカホヤ層の上面に目を向けると、第3図(3)層の中に曾畑式土器が集中して出土する区域があった。その他にも第3図(2)(3)層からは縄文時代後晩期の土器や土師器、また磨石などの石器等が調査区全体から多数出土した。中世のものと思われる土壇も107基検出されたが構築時期や用途については現段階では不明である。

白ヶ野第4遺跡ではアカホヤ層の直下から霧島小林軽石層の直上までを調査の主たる対象としたため、出土した遺物は縄文時代早期の土器や石器等が殆どであった。その中で注目される遺物として石製の装身具（腕輪・首飾り）と思われる破片三点があげられる。早期の装身具となれば出土例があまり無いため貴重な資料となろう。

また検出された集石遺構については、単体で存在するものの他、数基集中する中で大型の集石遺構の周りに小型の集石遺構が数基集まって存在するものが白ヶ野第1、第4遺跡をとおしてみられたことに注目したい。

以上が白ヶ野第1遺跡及び白ヶ野第4遺跡の概要報告であるが、今後、調査で得られた資料を整理し、詳細な検討を加えた上で、本報告を行いたい。



図版 1 白ヶ野第 1 遺跡中央調査区全景



図版 2 白ヶ野第 1 遺跡北調査区全景



図版3 白ヶ野第1遺跡 SC40



図版4 白ヶ野第4遺跡全景



図版5 白ヶ野第4遺跡石製装身具出土状況



図版6 白ヶ野第4遺跡 S I 2



図版 7 白ヶ野第 1 遺跡出土遺物



図版8 白ヶ野第4遺跡出土遺物

|         |                                |          |            |             |                   |      |
|---------|--------------------------------|----------|------------|-------------|-------------------|------|
| ふりがな    | ハッカノダイイチ・ダイヨンイセキ               |          |            |             |                   |      |
| 書名      | 白ヶ野第1・第4遺跡                     |          |            |             |                   |      |
| 副書名     | 県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査概要報告書 |          |            |             |                   |      |
| 巻次      | 第1集                            |          |            |             |                   |      |
| シリーズ名   | 清武町文化財調査報告書                    |          |            |             |                   |      |
| シリーズ番号  | 第5集                            |          |            |             |                   |      |
| 編著者名    | 井田 篤                           |          |            |             |                   |      |
| 編集機関    | 清武町教育委員会                       |          |            |             |                   |      |
| 所在地     | 宮崎県宮崎郡清武町大字船引1204番地            |          |            |             |                   |      |
| 発行年月日   | 1997年3月31日                     |          |            |             |                   |      |
| 所在遺跡名   | 所在地                            | 市町村：遺跡番号 | 北緯         | 東経          | 調査期間              |      |
| 白ヶ野第1   | 清武町<br>大字船引                    | 清武町：211  | 31° 52' 40 | 131° 22' 10 | 95.11.22～96. 3.14 |      |
| 白ヶ野第4   |                                |          | 31° 52' 43 | 131° 22' 23 |                   |      |
| 調査諸責    | 調査原因                           | 種別       | 主な時代       | 主な遺構        | 主な遺物              | 特記事項 |
| 17,200㎡ | 農業関連                           | 集落       | 縄文中世       | 土壇、集石遺構     | 縄文式土器             |      |
| 1,900㎡  |                                |          | 縄文         | 集石遺構、土壇     | 土師器<br>石器         |      |

清武町文化財調査報告書 第5集

白ヶ野跡1・第4遺跡

発行年月 1997年3月

編集・発行 清武町教育委員会

印刷 昭和印刷

